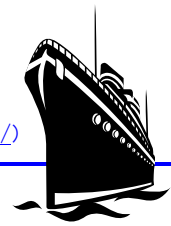


MSI Marine News

トピックス

海上保険の総合情報サイト **MARINE@vi** もぜひ、ご覧ください。 (http://www.ms-ins.com/marine_navi/)

物流業界に拡がりを見せる「フォークリフトレコーダー」による事故防止

フォークリフトは重量物を含む商品を効率的に動かすために、運送会社のみならず倉庫業者、製造業者の物流現場で最も多く使われている輸送機器の一つです。一方、一度事故が発生すると損害が高額となることが多く、フォークリフト操縦者の不足や熟練度の低下による事故が増加傾向にあります。

トラックの安全運転の管理については、ドライブレコーダーによる運行管理が普及しており、一般乗用車向けにもスマートフォン用のアプリとしてドライブレコーダーが開発されるなど、レコーダーは自動車事故防止に活用されています。これらと同様にフォークリフトにもレコーダーによる事故防止に取り組む動きが注目を集めています。

当社では、最近レコーダーメーカーで開発されたフォークリフト専用のレコーダーを活用してお客さま向けサービスの一環として事故防止、荷役改善に試験的な取り組みを開始しました。

具体的にはフォークリフトにカメラとレコーダーを設置し、5つの挙動データ ①走行速度 ②急加速 ③急減速 ④前進の急旋回 ⑤後進中の急旋回を検出、各指標に基づき点数化(図1)することで操縦者のクセを「見える化」します。また、基準値を超えた操作が検出されると、自動的に前後30秒間の映像を記録保存(図2)します。

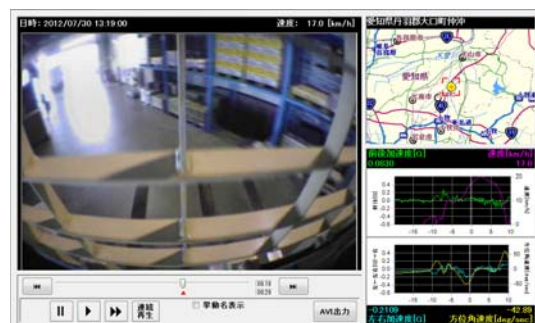
ヒューマンエラーによる事故を防止するために、実際の事故には至らなかったがヒヤリとした情報(ヒヤリハット)の共有を行い、その原因を深掘りしてPDCA(PLAN DO CHECK ACTION)サイクルを回す手法があります。レコーダーによる映像、指標などの客観的な数値は、ヒヤリハットも含め、管理者が操縦者への指導、継続的な管理をする上で活用しやすいと評価されています。

輸送品質を向上させる上で、フォークリフト事故の撲滅は物流業者にとって重要な問題です。本レコーダーは設置コストの課題はありますが、正確な事故原因の究明をすることで的確な再発防止策が実施できるツールとして更なる展開の拡大が予想されます。

フォークリフトレコーダーに関してご興味のある方は、当社担当営業窓口にお問い合わせ下さい。また、フォークリフトの代表的な事故例を示した防止ポスターを無料配布していますのでご入用の方は併せてご連絡下さい。



図1

図2
以上